

SOULNOTE

D/A コンバーター

D-2 を聴く

ダイナミックオーディオ川又様と株式会社 CSR 様のお取り計らいにより、自宅で試聴させていただきました。お骨折りいただいた方々に深く感謝いたしますと共に試聴結果について報告させていただきます。

Photo & Text K.M



高音質 D/A コンバーターを探して

私の現在のメインソースは、デジタル・ファイルと mora qualitas (配信サービス)となっており、ディスクを再生することはほとんどありません。再生にネットワークプレーヤーや複数の PC による複雑なシステムを使ったこともありましたが、現在では PC と D/A コンバーター (DAC) によるシンプルなシステムに落ち着いています。

グレードアップにあたっては、システムが複雑化することのないよう、単体 DAC により音質向上を目指すことにしました。ソウルノート D-2 に興味を持ったのは、ESS 社の最高峰 DAC チップ 9038pro を 4 基も搭載し電源部が充実していること、NOS の採用など動的特性にこだわった独創的な設計思想に基づいていること、などに魅力を感じたためです。

試聴に使用した PC は、Intel Core i7 4770K の自作ファンレス型でオーディオ用の低ノイズ USB カード JCAT USB femto を搭載しています。(この USB カードは非常に優秀で、内蔵 HDD からのデータ読み出しであっても専用のデジタル・トランスポートやネットワークプレーヤーと遜色のないクオリティの出力を実現しています。) 再生ソフトには、Audirvana Plus for Windows と JPLAY femto の 2 種類を使用しました。



NOS と BULKPET による多彩な音の世界

D-2 を使ううえで設計者は 2 つのポイントを挙げています。ひとつは、極性に留意しながら付属の電源ケーブルを使用すること、もうひとつは、付属の 3 点支持スパイクは、できる限りスパイク受けを使わずに棚板などに突き刺して設置することです。この 2 点を守って試聴を始めました。

ソウルノートの DAC の特徴として、FIR デジタルフィルターを使用しない NOS モードが有名ですが、

このほかにデータ転送方式をアイソクロナスと Bulk Pet、JPLAY モードから選べるようになっています。

最初に、Audirvana を使ったアイソクロナス転送で WAVE ファイルを NOS モードで聴きました。まず、広帯域のゆとりを感じさせる音に驚かされます。楽器や歌声が発音し、楽器や歌手の身体で共振し、空間を渡り、空間の響きが加わっていく、という一瞬の時間の中で音が刻々と変化するプロセスが感じられるような気がするのです。音の質感がしっかり出ているといいますか、精密な再現を極めた結果、実在感や奏者の情感を伝える音楽表現に到達し、伸び伸びと歌っているように感じら



れます。2種類の FIR デジタルフィルターが使えるようになっているので比較してみました。NOS モードの方が、音が滑らかで心地良く感じられました。そこで、NOS モードで試聴を続けることにしました。

次に、Bulk pet 転送を試します。Bulk pet 転送には 1 から 4 まで 4 つのモードがあり、モード 1 は、アイソクロナス転送に比べてややサラリとした印象です。逆に言うとアイソクロナス転送の音にはわずかに粘り気のようなものを感じていたことに気付かされました。私は、この違いを優劣ではなく、味わいの違いと捉えました。また、モード 1 では各楽器の音が溶け合い、ハーモニーがとてもきれいに聞こえます。室内楽やオーケストラ演奏の美しさに陶然となっていました。モード 4 に切り替えると、個別の楽器の存在感が高まり、ハーモニーの美しさより奏者の個性が際立ちます。ジャズやソロ演奏、ボーカル等に使用したいモードです。モード 2 と 3 は、モード 1 から 4 へと変化していく中間段階のモードで微妙なサジ加減と言え、じっくりと時間をかけて検討していく必要があると思いました。

最後に JPLAY 専用の JPLAY モードを試します。JPLAY によるファイル再生は、DAC Link(調整項目のひとつ)1000Hz で動作させると最高のパフォーマンスを発揮すると言われてはいますが、音トビ等が起こりやすく、使いこなしが難しい面があります。D-2 の JPLAY モードでは、何の苦労もなく、DAC Link 1000Hz 再生を達成することができました。音調は、モード 4 に近いメリハリ系の出音で Audirvana の滑らかさに対して、派手で明快という個性が感じられます。ハーモニー系の音楽は Audirvana、リズム系の音楽は JPLAY が向いていると思います。



開発者の顔が見える製品

ここまでのレポートをお読みになれば、私が試聴後直ちに発注したことは容易に想像できると思います。ソウルノートの設計者である加藤氏は、フェイスブックで設計思想や開発状況を頻繁に発信されています。型にはまらない発想と機器開発に向ける熱い情熱には深く共感するところです。高度なオーディオ技術が一般化し、メーカーのカラーを打ち出すことが難しくなっている現在、一人の設計者の音楽的な感性を前面に押し出した製品づくりが注目を集めるようになってきています。ソウルノート D-2 は、そのさきがけとなる成果のひとつであると思います。

